

平成28年
2月25日

病害虫発生予報 3月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

種もみ消毒後の廃液は河川等に流さないようにしましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：うどんこ病	1
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	2
促成トマト：灰色かび病	2
春ハクサイ：べと病	3
春レタス：灰色かび病	3

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，春レタス	4
------------------------------	---

II. 今月の気象予報 5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせください。

茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率（本年値 30.7%、過去7年平均値 15.7%）、被害葉率（本年値 19.8%、平年値 13.6%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在、発病度*は平年よりやや高く（本年値 9.8、平年値 4.8）、発生地点率は平年より高い（本年値 100%、平年値 45%）。ただし、発病度は圃場による差が大きい。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率は平年より高く（本年値 68.0%，平年値 35.9%）、発生地点率は平年並（本年値 75%，平年値 72%）である。
- ② 2月中旬現在、半促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 15.0%，平年値 4.3%）、発生地点率（本年値 67%，平年値 39%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在、発病果率は平年より高く（本年値 0.12%，平年値 0.03%）、発病株率は平年よりやや高い（本年値 7.8%，平年値 1.9%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

春ハクサイ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在，発病度^{*}は平年並（本年値 0.4，平年値 0.3）で，発生地点率は平年より高い（本年値 40%，平年値 6%）。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

- ② 気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並か多く，日照時間は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① トンネル内が多湿になると発生が助長されるので，換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。
- ② 多発すると防除が困難となるため，初期防除を徹底する。また，薬剤は，薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

春レタス

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 2月中旬現在，発病株率（本年値 0.8%，平年値 0.1%），発生地点率（本年値 40%，平年値 4%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① トンネル内が多湿になると発生が助長されるので，換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。
- ② 多発すると防除が困難となるため，初期防除を徹底する。また，薬剤は，薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並 ～やや多い	2月中旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成トマト	疫病	発生量：－	2月中旬現在，県内の一部圃場で発生を認めている。
促成キュウリ	灰色かび病	発生量：平年並	2月中旬現在，平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	2月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	べと病		
春レタス	菌核病	発生量：平年並	2月中旬現在，平年並の発生である。
	腐敗病		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月27日から3月26日)

気象庁(2月25日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

期間の前半は, 気温がかなり高くなる見込みです。

天気は数日の周期で変わりますが, 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月27日(土曜日)から3月4日(金曜日)

気温 高い確率60%

<2週目の予報> 3月5日(土曜日)から3月11日(金曜日)

気温 高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 3月12日(土曜日)から3月25日(金曜日)

気温 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, 異なる作用機構分類* (FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については, 病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照